

□ 随 想 □
うっ せみ

空蟬の記

阪本勝

え・津高和一

「セミの雌はうらやましい。雌が鳴かないから」と、口やかましい女房を持った身の上を、ソクラテスはつくづく嘆いた。

わたしち夫婦の雌は鳴かない。わたしはしあわせな雄である。セミの少ないヨーロッパから初めて日本にきた外国人は、セミの声をきいて「あれはなんと鳥の声か」と聞くそうだ。一八五〇年の初夏に日本にきたギリシャ人の小泉八雲も、そんな質問をした。そしてソクラテスの言の正しいことを確認した。

さる一月のなかごろ、居間のコタツに足を入れて、ぼんやり窓の外のみぞれを眺めていたとき、うちの雌がめずらしく、こんな風に鳴いた。

「おとうちゃん、セミセミどのくらい生きてますの」

生物学に詳しい雄は言下に答えた。



「成虫になってから、せいぜい一カ月足らずだ。アブラセミなどは、六年間も土の中で幼虫時代をすごし、七年目に初めて地上に出てくるんだ。それからわずか一カ月鳴いて死んでゆくんだよ。可哀そうだと思わないかい」

雌は黙ってうなずいた。

「なぜだしぬけにそんなこと聞くんだ」

「わかってるくせに……」

「わからないなあ……」

と、いつてから、ふと気がついた。

去冬クリスマス前の夜、神戸新聞の学芸部記者で、わたしの甥にあたるK君の家で、ビールをのんだ。わが雌もいっしょだった。そのとき、われら雌雄のあいだに生まれたむすめ、つまり幼虫のことに話がおよんだ。この幼虫、今年二十三歳でことし中にどうやら成虫になりそうな形勢である。

ビールでご気嫌になったわたしは、こんなことをしゃべった。

「犬養道子さんの話によると、ドストエフスキーは、かつていったそうだ——星を見るには二つの見方がある。一つは空を仰いで直接に見ること、もう一つは、淵の深みの底に映る星影を見ること」

「おじさんの天文学がまた始まった」

と甥が半畳を入れやがった。

「なんじ静かに聴け。今夜はクリスマス・イーブなるぞ」ドストエフスキーにならうていえば、セミの哀しさを味わうには、二つの味わい方がある。一つは、成虫になってからの命の短かさの哀れ、も一つは、幼虫が、出ていったあとの抜け殻の哀れ……。

甥のママ、つまりわたしの妹が、ハッとしたような顔つきでわたしを見た。わたしは調子にのって、ぐいっとビールのみほした。

「ツルゲーネフの小説に『烟』というのがあるだろう。おれはあの作品が好きで、若いころ英語で読んで感動した。あの長篇小説は、煙よ、煙よ、みな煙よ、という言葉で終わっている。どこかの新劇団があれを芝居にして、煙よ、煙よの歌を歌った。おれもそれをおぼえてよく歌ったもんだよ」

コップの底で軽く食卓をたたきながら、わたしは歌いかつ、しゃべった。

「ヘケムリヨ、ケムリヨ、ミーナ、ケムリヨ……小弓(幼虫の名)はことし中にお嫁にゆく。いや、略奪されてゆく。あとに残るのは、二つの抜け殻だ。ほら、夏の初めごろに、松の木なんかの幹にぶらさがっている褐色のアレだ。子供のこ

ろ、よく指のさきでつまんで取ったことがあるだろう。ポロリとすぐ落ちる軽い、軽あるい、あれだよ……。昔の歌にこんなのがあったな。うつぜみはからを見つともなくさめつ深草の山烟だに立て……」

わたしは、ひとりで歌ったり、誦したり、まくしたてたりしたようだ。そのうちビールが悲しく腹にしみわたってきて、不覚にも溢れ出た涙を指先でふいた。K君の嫁の信ちゃんのほうべたに幾すじも幾すじも涙が流れ落ちた。

こりゃいかん、わたしは気づいた。そこでコップを高くさしあげて、元氣よくいった。

「よけいなこといっちゃった。すまん、すまん、しかしなあ、空蟬の君よ」

と、わが雌の顔をにらむように見ながら、

「セミの成虫は、せいぜい一カ月より命はないが、われらの幼虫もし成虫ならば、これからたつぷり五十年は生きられるんだぜ。ありがたいじゃないか。うれしいじゃないか。われらうつぜみと化すとも、父よ悲しむなかれ、母よ嘆くなかれ、妹よ泣くなかれ、信ちゃんよ泣くなかれ。モーセイわく、生命は万古の流れなり。信ちゃん、二月はキミのパンクの月だよ。エエ子生めよ。いや、生んでくれよ。元旦にキミらの部屋に飾る歌をおれが書いたよ。筆と紙をもてエエ」

殿様の命によって運びこまれた筆でさらさらと書いた一首。

きさらぎの春のはじめに清らなるいのち生れよ
といのらくわれは

祝福と喜びの声がや々と湧いた。〈随筆家〉

□ 随 想 □

旅と自然

松本奉山
え・津高和一



四度目の国外一人旅行から、昨年末帰ってきた。「日本が恋しかったでしょう」「お茶漬が恋しかったでしょう」と、また幾人かの方にたずねられ、いつものように「いいえ」とお返事しましたけれど、日本の美しさとか、この国の伝統の中にある心というものを大切にしたいと思うことは、旅を重ねるにつれ、ますます深くなってきます。

自然の美しさ、風物の美しさは、国それぞれに優れたものがあります。一九六三年に、初めて米国メイン州の夏季学校に招かれて行ったのですが、アメリカの雄大な自然に引きつけられ、渺茫と灰色にひろがる大西洋にも、深い松林を包む霧の流れにも、見わたす限りつづくクイーンアンスリースの花にも、水墨画の世界を見出しました。名も知らぬ道ばたの雑草をさえいとおしみ「また来る年咲く花のため」むだに引抜き手折ることを

せぬアメリカ人の心は、その生活と自然とを見事に融和させ、自然の美を害うことのないのを、うらやましいと見ました。またニューヨークでは、高層建築が林とならぶ近代的な美しさ、唸るようなその迫力がすばらしく、広い道は地の果てまでかと延び、大きな夕陽が、ハドソン河を染めれば、力強く明日が期待されて、旅情をまとう私はたちまち美しい画の世界に引き入れられました。年、一年、アメリカでの生活は、私と自然の結びつきを高く純なものにしてゆくように思えました。こんなことがありました。ワシントン湖畔で、大きな柳の木の枝が垂れているのを見ていました。人一人いません。静かでした。小波もない水面にむかって動かぬ枝が垂直にたれ下り、空気もゆれません。その時私はその柳が古い日本画に見る形そのままであることに、ふと気付いたので。ああこの柳というものの持つ美しさにひかれて、昔の人も描い

たのでしょう。その人もこの柳のもつ静かさに、宇宙の生命を感じたのでしょう。私は水墨に生きて来た年月を、その時ほど尊く思ったことはありません。時間を貫き、人の心をつらぬいて流れる美の流れの中に、今私が生きていると思う喜びの中で、私は師（松本尚山先生）の許できびしく指導された水墨画の筆の力と画家の生命力との結びつきがどんなに大切かを知り、日本に生れ、水墨画という一つの伝統の道を歩いて来たことのありがたさを感じました。

昨年は七月ニューヨークでの個展を終ると、念願だったヨーロッパへ行くことが出来ました。ロナルド・ダ・ビンチ空港にお立ちますと、通じる言葉を知らぬ所へきた心細さより、とうとうローマにきたという喜びが、全身を豊かにし、南欧のそよ風の中で自分も輝く思いです。底抜けに澄み切った空の下、まっかなひなげしが黄土色の土手に草むらにいっぱい咲いて風にゆれ、明るさがすみずみまでひろがって、ここは色の世界だと思われました。一番にバチカンのお寺にゆきました。そしてサンピエトロ寺院に一步踏み入ると、たちまちアッと私は声をのみました。何という立派さ、何という荘麗さ。あまりにも行きとどいた計算のもとに制作された立派さ。人間が神への憧れを、このような美によって表現できるものであったかと感動が身内を走りました。偉大な芸術家はこれほどまでに美を作り出し、宇宙にみちる声をここに聞かしてくれろと思ひ、私は圧倒されてしまいました。

く、ピエタの彫刻の前で、この大理石を通して表現されている美の尊さに、涙のあふれ落ちるのをとめようもありませんでした。心と技の高い一致点を、今、まさきと見ているのです。画家になろうと決心してから二十五年、苦しみの中にあけて、真理に向う真実を生活の中に一番大切なものとして、生きて描きたいと願ってききましたが、自前に愛情と技とに輝く作品をみ、かつて本でよみ写真ではみてもあまりに偉大で縁遠いと思われていたものに近々とふれて、その生命も自分の願

いも一つ道のものであると知った時、私は自分の仕事の中で貫き通さねばならぬ力が与えられ、この感動は自分が画家として現在生きてあるしるしではないかと、自分に語りかけたのです。このことは私の人生の記録の中に、最も大切なものとして書き入れねばならぬことです。

旅程がとつてあったため、ボンベイの遺跡をたずね、アパートの壁のくずれのおもしろいナポリの町があるき、ソレントの青く深い海の色もたのしみましたが、そうしてついやす時間も惜しく、再びローマに帰り、暑い真夏の日射の中を芸術作品の研究にあちらこちらと毎日出歩きました。フイレンツェにも十日間とどまり、ミケランジェロの家では、恐らく彼がかけたであろう椅子に腰かけて、自分の画業が、美しい自然の道の中で高められてゆくことを祈りました。

今、私は静かに柳や白樺をえがきつづけています。目にふれ心にふれる様々の美をかきつづけてゆきたいものです。水墨画は人の心にしみこむものでなければならぬのですから。 八日本画家V



□随想十絵□

神戸エーカイナ

横塚 繁 (絵も)

「スカートメクリハッタ」。悪童どもは、黄、赤、水色の可愛いのをめぐり上げては、はしゃぎまわった。が、ただ一人だけどうしても決行でできなかった少女がいた。あまりに美しく、クイーン的であったからである。この少女、いやおぼさんに元町通りのどまん中で呼び止められた。二十五年ぶりである。

フックリした顔立ちには、そのままだが、眼鏡などおかけになって、どこかインテリバーさんかと思われながらとまどった。というようなことで、彼女からさそわれ、小学校の同窓会なるものに初めて参加した。東京からはるばると、その昔、ピチピチのお嬢連中が、彼女等の母親以上のカンロクで顔を並べていた。男性諸君もい親爺になって出席していたが、眼は自然とおぼさん連の方に向く。子供の頃のオカチメンコは、大きくなるでシャンになる。またその反対の場合もあるというのには、本当であったな。美しい人がいたが、この誰やらさっぱりわからず非常に残念。

過日、神戸そごうで郷土初めての個展をひらいた。いつも怠けに怠けているので、さてとなるとなかなか作品が集まらず、期限ぎりぎりのインスタントものとなり、関係の皆さんに多大の迷惑をおかけしてしまった。

しかし、会期中にいろいろな人にお会いできた。例のスカートをめくれなかった令夫人他、令夫人、中学時代の友、小学時代の画の先生も来られて、大変懐しかった。先生老いてますます盛ん。祈る、御健闘。

夜はいつもの如く、知人友人と三宮、元町を呑み歩いた。酒に酔うと、僕の足は自然と港へ向う岸壁につ立って波間にゆれる神戸の街の灯を、ボワーと見つめるのが大好きである。そばに美しい人がいてくれれば、一層うれしい。夜の更けるのも忘れる。

去年の暮れ三十日に東京を出発。愛車のコロナハードトップを駈けて、関西へ向った。雪の奈良や京都で正月を過ごせるとはオツなものと期待して出かけたのが、残念ながらそれほど情緒深いものではなかった。奈良の薬師寺、法隆寺、東大寺などは初詣客で押すな押すなの大盛況。仏像を見ようとしても思おうものなら、人垣をもぐってでもゆかねばご尊顔を拝することは難しい。どうやらよそさまもドライブ初詣をとねらったせいらしい。それでも三月上旬に開く個展のための絵を奈良、京都、神戸とスケッチしてひきあげた。

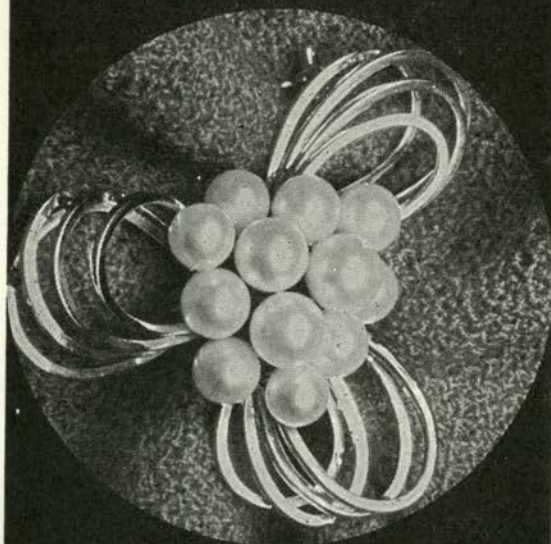
三宮のバーで知り合った娘さんがいる。もう立派な大人だから、スカートをめくったりはしない。あまり美人ではないが、関西特有のやさしさがあつた。一度東京にさそった時、朝着いて午後頃に、「もう帰るわ。東京は空気がきたないし、ワンワンして胸がシンダーなる」ほんとに帰ってしまった。なるほど彼女の住む芦屋付近は、ごつたいええとこや。六甲の夕風、芦屋川べりの松の緑など——別荘でも建てて、週に一度の骨休めにかよいたい、エーカイナ。

△洋画家・二紀会▽

★文春画廊で三月二十五日～三十一日に横塚氏の個展が開かれます。

Kitamura Pearls

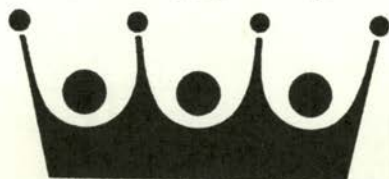
世界の人々に愛される
キタムラパール



北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL ③③ 0072
東京：スキヤ橋店 TEL<571>8032

どこにもない味



HIROTA

栄養の王様

**ヒロタの
シュクリーム**

元町店
(33) 2340

三宮店
(32) 1227

さんちか店
(39) 3474

秀品店
(23) 2312

おんがら屋



きものと細貨

おんがら屋

神戸

西店/三宮センター街・電話3 3-8836 (代)

東店/三宮センター街・電話3 3-0629

三宮店/さんちかタウン・電話3 9-4303

東京

銀座北店/銀座並木通り・電話573-5298 (代)

銀座南店/銀座並木通り・電話572-4847

渋谷店/東急本店 (京阪神銀座タウン)

日本橋店/東急日本橋店 (5階和装名産街)

電話211-0511 (代) (内線294)

＊芸夢・ウィンドーめぐり

〈トアロード店〉



西田武男のプレタポルテ

舶来洋品雑貨他

ぜひお立寄り下さい

コスチュームアクセサリーの店

EIMU 芸 げいむ 夢

神戸店/トアロード (33) 2293-8643

大阪店/心斎橋ロビー (211) 5153-1044

ブレイモンド・エッチャン (211) 8503

さんちか店/レディスタウン (39) 2855

京都店/藤井大丸1F (23) 8181

東京店/東急日本橋1F (211) 0511

☆ダイナミック神戸

春木一夫
え・たかはし・もう

菊正宗酒造の巻・嘉納毅六社長をたずねて

四季醸造の灘の生一本



●琥珀色の酒キクマサが整然とビンにつめられる

一六甲おろしが肌に痛い。眼から涙が出るほどだ。御影の駅をおりて、海岸の方へくだる。電車の窓から眺めると、御影の町はビルが並び立ち、酒造りの近代化を誇っているようだが、一たび町中に入ると、クラシックとモダニズムが交錯している。映画のセットに出てくるような白壁、黒板塀の工場。まっ白なコンクリート工場。封建性と近代性がかっこよかった異様な感じだ。が救い

は木箱と酒の匂い。それが空気を甘く清々しくしている。公害とは無縁らしい、しかし、ここでもやはり、三輪車やトラックが、右往左往。パチルスのように亜硫酸ガスをまき散らしている。クタパレノ自動車め。

菊正宗のがっしりしたビルに入ってほっとした。クラシックな建物は、大正十五年製。やはり、戦前のものはしっかりとした落ちつきがある。そういえば、日本酒にも

戦前の匂いがある。

「酒の味は、戦前と一緒ですか」

嘉納毅六社長にたずねてみた。

「変りましたね。総体に甘くなっています」

どうやら、味覚と感覚は違うようだ。そこで方向を変えた。君子は豹変する。

「タル酒を最近の若者は、変な匂いがするといいますが。ビン酒で訓練されたせいでしょうな。何事も、習慣でしょうか」

「やはり、うまいのは、タル酒ですよ。杉の香りがブーンとしみ込んでいて、将来は、その方向に向くんじやないのですか」

歯車が噛み合わない。質問者の頭脳が、二日酔いのせいでろうか。そこでまた、話題の方向転換。

「二十年程前、一度、友人の処でお目にかかりましたが」「覚えていません」

「何か文化関係の仕事で、おあいしたようでしたが」

「ああ、国際文化協会のことですか」

「どうやらやっとピントが合ったようだ。」

「あれは、どんな内容でしたか」

「昭和二十一年のころでしたな」

ちょっと目を閉じ、懐古的。そりゃ、そうだろう。二十数年前のことだものな……。

「語学の講座をやったり、パーティを開いたり、講演会を催したり。金を使わなかった割りに、みなよく集まりましたよ。文化を吸収するにどんらんだったせいでしょうな」

文化へ不感症になった市民へ、チェッピリ不満顔。

「それから、公安委員長をやられましたが、民間側から、警察への規制ができましたか」

「甲南組合警察時代ですな。色々理想的なことを要求しましたが、ある程度は受け入れてくれましたよ。何しろ警察長の任免権を持っているのですからね」

犬が東向きゃ、尾は西を向くことだろう。

「菊正宗さんには、大分、軍隊時代敬礼をさせられましたよ」

「というと、軍隊が同じで……」

「違いますか。恩師の酒ですすよ」

「ああ、うちは宮内省御用達をしていましたからね。そりゃ、二合瓶ですか」

「どうして、どうして。盃一杯だけですよ。これを呑んで、死んでこいなんていわれましてね。同じ死ぬなら、腹一杯呑んでから死にたいと思いましたよ。げすの根性ですか」

「そのお返しに、これからぐんと呑んで下さい。思い残しのないように」

思いやりがある。ただし、買って呑め、という含みがそれほど甘くはないぞという商人性を内包している。

「お酒が駄目だそうですね」

「それでも修業で、一本はあけるようになりました」

一本といつたって徳利一本。売り上げに、余りご協力ではないようだ。

「生家が、千葉で醤油をつくっていたものでね」

「醤油から酒へ。それは何か動機が」

「醤油つくりにも飽きましてね。変わったものをやろうと、酒屋へきたわけですよ」

「ほくも一緒ですな。代々大工だったのですが、そいつにあきましてね。」

C調である。ほんにほくも、調子がよい。あきたのではなく、釘一本打てない不器用さに絶望したんだ。正直に告白しろ。そろそろ本論に入ろう。

「灘の酒のおいしいのは……」

「米、水、技術でしょうな」

「米は播州米の山田錦だそうですが、外米を使うという話も聞いておりますが」

「外米は大粒なのが少ないのでね。カリフォルニア米の研究をやっていますが、まだ結論をえていません」

「水は、やはり西宮の宮水ですか」



嘉納社長 絵—たかはし・もう

「それはね。戦後の二十年には酒の生産が八十三万八千石。二十三年には六十六万石と、戦前最高造石数の大正八年の五八七万石にくらべると、がたべりをしたんです。そこで政府が、原料米一に対してアルコール二の割り合いを考えついたというわけで」

「満州国の例にならったわけですな」

「おや、よくご承知で。わたしどもの方でも、奉天に工場がありましたか」

「満州国の酒の消費量が、激増して内地からの輸出入酒ではとうていまかない切れないと」

「そこで、この三倍増醸のつくり方を満州国経理部醸造

「そう。宮水です。これは何と云ったって、灘以外には出ませんのね」

「百二十年ほど前に、魚崎の山邑^{やま}太左衛門という人が見つけたそうですね」

「なかなかの科学者ですね。宮水でつくった酒とそうでないものとを比較したんです。最初は職人の技術かと思っ
てかえて見たが、そうでもない。次は蔵が悪いのかと別蔵でやった。蔵にはご存知のように、蔵独特の菌があり
ますからね。結果やはり、水だということで、それか
ら、宮水を使い出したわけです」

「日本人は理論よりも、体験として、立派なものを発見
していますね。ところで、宮水の成分は」

「カルシューム、マグネシューム、カリ、鉄、塩、塩、硝酸

こういったものを含んでいます。特に燐が多いんです
ね。他の地区の十倍はあるんでしょう。なぜ燐が多い方
がよいかというと、酒を仕込む時、酵母は燐の欠乏状態
になるんですな。そこで、燐の多い水に出あうと、その
不足分が補われるもんだから、非常に醗酵が早い、とい
うことになるんですよ」

さすがは東大農芸化学出身。難しい元素が立ちどころ
口をついて出る。

「最近の酒は、アルコールが入っていますが」

「アルコールはない方がよいのですが、値段との釣り合
いでね」

「それでも、二十四年までは、アルコールなしだったじ
やありませんか」

技師だった長島長治さんという人が考えたのです」

「先ほどの宮水ですが、枯渇しませんか」

「酒屋の汲む量は二十六万トン。最高の汲み上げ期でも、一日三千五百トンくらいですから、さし支えないでしょう。これもスビードが問題でしてね。早く汲みすぎるといろんな元素がとけこまないし、遅ければ無駄に流れてしまいますから、その辺が加減のものですよ。ただ、工場がどしどし、汲み上げ始めるとおそろしいですね」

「西宮で、自動車を洗うのに宮水を使っている。そんなことを想像すると、胸が痛みますよ」

「いや、ありがとう。しかし、宮水は伏流として、ある地域だけを走っているのですから、そういうご懸念はないと思いますよ」

「こちらのオベンチャラを、チャーんと見ぬいてござる。魯鈍な三代目ではない。ちなみに穀六社長は、嘉納家の十代目である。」

「工場は四季醸造をやっておられるそうですね」

「一部工場ですね」

「全部じゃないんですか」

「一工場に七億ほどかかります。設備投資が大へんですからね」

「嘉納さんでも、億がつくと、大金だということになる。」

「先日、丹波で杜氏志望者が少なくなったと聞きましたがお宅でオートメ化にふみ切られたのは、労力不足が先か、合理化が先か。どちらです」

「それはね……考えこんだ。」

「難しい問題ですよ」

「頭の中はのそきこめない。経営者が頭をひねるのだから、相当の難問なのだろう。」

「これからの労働力は、質が違ってきますからね」

「やっ」と口が開かれた。難しい答えて、こちらが理解に

苦しむ。

「金持ちの旦那が、豊富な労働力を搾取してノホホンと暮らせる時代は過ぎましたからね。労働力の再編成過程

を見直していかねばなりませんよ」

「といいますと、季節労働などというものは、これから頼りにならないというわけですね」

「古い蔵だと、そうしなけりゃならんでしようが、それが当てにならなくなってきたので、四季醸造に踏み切ったわけですよ。杜氏も常時雇っておかないと、逃げ出す時代になりましたよ」

「農業再編成過程における余波が、灘にも深刻に打ちよせてきているのである。」

「九代目までが、嘉納治郎右衛門さんですが、十代目のあなたは、どうして穀六さんなんですか」

「親父が会長をしていて生きておりますからね」

「会長が隠居されたら、お蔵ぎになるんですか」

「さあ、それはその時になって見なければ分りませんな」

「古い名前を襲うことは、古い製造形態、経営形態をつぐことである。わたしは、あえてそれを否定すべきかどうかについて迷っている。トウ・ビー・オー・ナット。悲劇の主人公のような解答である。」

「酒代がまた上るそうですね」

「いやなことですよ。わたしたちは上げたくないんですが、米が上がる。税金が上がる。これじゃ、どうしても上げざるをえないんです。米代の上昇を待ってくれ。そしてら、酒屋は二年目に一度の値上げでよいからと陳情したんですが駄目ですよ」

「酒の値上げは四月。たばこの値上げは五月、というのはどういうわけです」

「酒は販売店を税務署が、一度に押えられます。値上げた瞬間に、在庫品も増税できますが、煙草は小売店の実態がはっきりつかめないらしいので……」

「仕方ありませんな。それじゃ、値上げ分だけ、酒をうまくして下さい」

「その点は、ご懸念なく。灘酒は良心的ですからな」

「菊正宗といわないところがよろしい。さすがは、大人だ。」

■技術ジャーナル

かぜ

諸岡 博熊

〈神戸市企画局調査部〉

このほど発表された厚生省の「四十一年度生活総合調査結果」によると、国民の健康は、呼吸器病が一九・五%、消化器病が一八・九%、循環器病が一三・七%

名	称	気候と関連する原因	疫学からみた原因
かぜ	寒 冒	春・秋 気 温 変 動	理化学的体質的 要因アレルギー
	感 冒	冬 気 温 低 下	感冒ビールス
	インフル エンザ	春・冬 気 温 低 下	インフルエンザ ビールス

神経系と感覚器の病気が二・五%事故・中毒・暴力が九・一%といった順である。つまり、かぜと胃腸病の多い国民といえる。

かぜの種類に、いわゆる鼻かぜの寒冒、細菌による感冒、そして、ビールスによって起るインフルエンザ(流行性感冒)の三つがある。

寒冒とは冷暖の気温変動の繰り返しによって起き、寒さ—気温の低下だけで起るものではない。これにかかると、鼻やのどの粘膜に炎症を起しやすいので、容易に感冒に移行する。だから、感冒を防ぐためには寒冒にかからないことも一つの方法。

感冒はインフルエンザほど症状がひどくない。咳、頭痛や軽い発熱程度の局所症状にとどまる。これは呼吸器系の飛沫伝染であるから患者に近づかないことが肝要。大勢人がいるところでは、室内の換気に注意すること。

インフルエンザにはABCなどの型があり、春と冬に流行する。潜伏期は、二、三日で発病前日から発病後、一、二日が感染しやすい。不顕性感染もあるので、早期の休養が必要。対策として、予防

接種が有効だがビールスの型に適合させる必要がある。効果は接種後、二、三週間から半年位。

かぜには特効薬がない。保温・安静・栄養という三大原則療法あるのみ。かぜ薬は症状をおさえ苦痛をやらげる対症療法にすぎない。体にてきる免疫抗体が自然に治すのを待つ以外にない。

「伊達の薄着」ということがあるが、普段から皮膚を鍛練しておくことがかぜを予防する最大のコツである。

かぜと気候の関係は密接なものがある。寒冒は春と秋、気温の変動によって、感冒は冬、気温の低下によってそれぞれかかりやすい傾向がある。

厚生省の国民健康調査結果によらずとも、かぜをひくと個人の問題でなく、企業にとっては欠勤されるので、社会的にこの予防は極めて重大な事柄である。このためにも、治療より予防という地味な衛生管理が大切となる。

かぜは万病のもともいわれるから、あなどらず初期に手当をしたいものである。



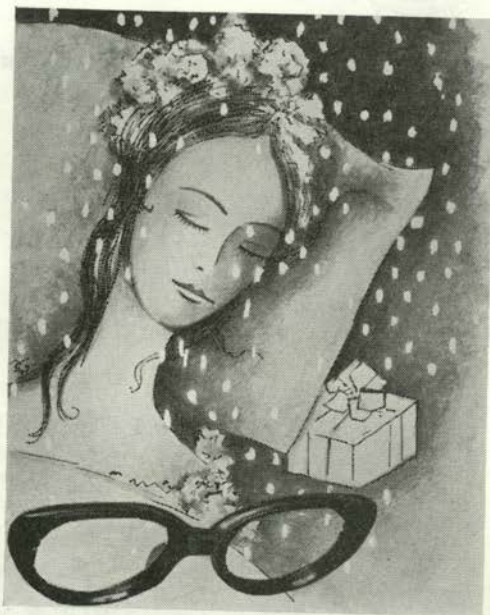
- *ランジェリー
- *ブラウス
- *セーター
- *ワンピース
- *スーツ

Mya

スギヤ

トア・ロード市電大丸電停前
 TEL (33) 3 4 3 6
 六甲店・阪急六甲駅
 TEL (87) 2 7 3 1 (呼)

夢のフレーム……
 好みのセンスに
 ピッタリ……



神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎⑩1212代表
 三宮店・さんちかタウン ☎⑨1874~5



春だ



マイペースで



アサヒスタイナー!

アサヒ
スタイナー
ブラック
新発売!!



神戸酒徒番附選考座談会

★ 審査員 ★

田中健一郎	〈甲南汽船社長〉	青木重雄	〈白鶴美術館事務局長〉
佐谷弘	〈神戸商工会議所専務理事〉	竹田洋太郎	〈神戸新聞論説委員〉
角南猛夫	〈角南商事社長〉	伊藤誠	〈神戸新聞学芸部次長〉
鶴殿礼江	〈松乃家経営〉	木村憲吾	〈館の壺店主〉



★呼出し★小泉康夫 〈本誌〉

★横網の貫禄十分の砂野仁氏

—今日は神戸っ子恒例の「神戸酒徒番附」四十三年度版を決めて

いただきましたと思います。まず、東方、経済人関係の方から……。

A 新人で誰かいない？神戸銀行の石野頭取はどうですか？

E そんなに飲まれませんけど、おつきあいはいいですよ。

B のみつぶりがいい。酒品をか

つて、前頭筆頭あたりはいける。A お医者さんに、強いのがたくさんいる。皮膚科の永松さん。

E 戸山先生もよく飲みはるし、A あれはおもしろい、底抜けに

おもしろい男や(笑)

B 県の総務部長の横山俊郎さん

あの人は強い、もっと上でもいい。A 遠藤英麿は休場。小野一夫、

島谷文雄は、ちょっとおとした方がいい。

B 小島阿似子が張出関脇というのはどうも。酒品の点で多少、議論がある。

A しかし、人からんだり、わめいたりというんじゃない。

C ぎやあぎやあ、やかましい連中がいますからね。(笑)

B 長部文治郎は？

E あの人は強い、絶対に入れないかん。
C 川鉄の藤本社長はどうですか
B かなり飲んでますけど、神

戸ではあんまり飲んでいない。
E 川崎車輛の上田社長も、おつきあいのいい人ですね。

A 外島健吉社長は、もうちょっといけるんじゃないですか？

E ブランデーやけど、いいお酒ですよ。

B 関脇が張出大関まで上げたらどうやろ。

A 南史郎、宮地表二は、ちょっとおちるな。

B この頃は、酒品も少しよくなっ

たんじゃないですか？
C 横網は、文句なしに砂野仁。貫禄十分ですね。

B 阿部正夫も立派ですね。紳士の酒ですよ。

C 張出横網ですね。

A 榎並正一は関脇あたり？
C 榎並さんのお酒は明るい、いいお酒ですね。

C それと嘉納正治を入れよう。

E すぐ寝てしまいますよ。(笑)
B その代り、起きてからが強い

(笑)
E 花隈では長駒はんですね。八

十いくつで、日一升位平気で飲んで

いるのですから。
C まるで国宝的存在ですね(笑)

大関、関脇あたりにいける。
B 乾豊彦はこのままでいい。

C 小尾知愛はもう少し上げた方がいいと思うがどうでしょう。
E 服部元三も、おとなしいけど

よく飲みますね。

B 沖豊治、この人も、いいお酒ですよ。

A 竹馬準之助が小結というのはちょっと疑問だ。

B 土俵にはよく上がってる。キヤリアが大したもんだ(笑)

E 日本樟脳の山本さんもいいお酒ですね、それに三菱重工の香木幹雄さんも強いですね。

B 住友ゴムの井上文左衛門、あの人もすごく飲む。

C 井上さんより、下川常雄さんの方がむそうですよ。

——若手で誰か?

C 若いのでは近藤忠吉。

A 砂野耕一はどうやる?

C これは強い、もっと上でもない。

A 柏井健一はどうです?

C この人は、飲まへんけど、殊勲賞を出してもいい位、つきあいがいい(笑)その代り、自分が飲まないから、他人のアラをよく見てる(笑)

B 玉井操も全然のまないし、牛尾吉朗もコーラ党で全然のまないから、立派な砂かむりですよ。

E 山村徳太郎さんもよく飲んでますね。

A 西宮だからというのではずしたんやけど。

C 森村茂樹さんかて、ものすごく強い。人柄も酒品もいい。



鶴殿 礼江さん



角南 猛夫氏



佐谷 弘氏



田中健一郎氏

B 返り咲きということで、十両でしんぼうしてもらおう。

★大巾に入れかわる文化人関係

D 文化人関係では、今年在具体の元永定正が帰ってきた。ニューヨークでも中西勝と盛んに飲んでたらしい。

F 阪本勝も、この頃また復活して飲んでる。

G お酒はやめてビールですけどすごいですよ。

F ビールといえば、古林喜幸も強いね。

D 及川英雄は入院中だけど、よく飲んでる。看護婦を従えて飲みに出てくるんだから(笑)

G 田口寛治なんて、グーッと上ですよ。三役に入れるべきですよ

D 佐藤篤郎は、この頃あまり飲んでるのを見ないけど。

F いえ、春陽会の連中と、よく飲んでありますよ。

D 新谷秀雄も、最近、量が減ってるから、小結から下げた方がいい。しかし楽しい酒ですよ。

F 最近、陳舜臣が少し押さえているという風ですよ。

D 『阿片戦争』を書きあげて、仕事の疲れがでているから、少し静養して再起を期待するということ……。

F 横綱はやはり朝比奈隆やね。D この頃、津高和一がこっつい。

張出横綱あたりにいける。

G 鴨居玲を大関にもつてこよう
まさに飲み盛りといったところだ
G 張出大関は足立巻一。よく飲
んではりませぬ。

F 貝原六一もすごい。神戸より
大阪の方が多いかもしれないが、
白髪一雄も強い。角ピン一本位平
気ですからね。

G やはり小結くらいですね。

F 神大の小島輝正。小柄ですけど、
すごいですよ。ねばりがある。

G 医者というのは文化的な医者
と経営者のな医者とありますけ
ど、原口力なんているのは、詩人
やね。非常に特異な酒飲みですね
それと松蔭の先生をしている安水
稔和は入れるべきやね。
F 今まで入ってなかったのが不
思議なくらいです。

G 酒品もいい、静かにチビチビ
飲んでくずれないし、話が実にお
もしろい。

F 詩人では伊勢田史郎。

D いったいに詩人はよく飲みま
すね。中村隆もそうだし。

G 東京からサントリーの藤本義
一がくるでしょ。あの人も、あま
りのまないけど、おもしろい酒。

F 飲ませる方ですね。ただ在神
戸でないからね。

F 西村元三郎さんも、陽気な
いお酒ですね。

D 石阪春生はどうですか？



木村 憲吾氏



伊藤 誠氏



竹田洋太郎氏



青木 重雄氏

F 新制作の人は、あまり飲ま
ないですね。中島節子にしてもね。
小磯先生は飲みはりますが、神戸
にはあまり出てこられない。

G 具体では、白髪一雄、元永定
正、向井修二の三人ですね。

D 向井君のように、人を楽しま
せ、自分もよく飲むというのは、
いい。

F 今神戸新聞に書いてる黒部亨
もよく飲む。前頭に入りますよ。

D 高橋孟も、この頃ガンパッて
ますね。

F 徳永秀則も相当いける。

D 彼も、そろそろ入幕してもい
いけど……。

★升田名人を飲み負かした

内藤国雄

G 女性の方で小山牧子はどうで
すか？

F 量は大了たことないけど、お
つき合いはいい。

D 結婚しはるそうですね。さし
つかえるといけないので、結婚後
を再評価するという……

(笑)

F 田辺聖子も量はともかくとし
て、酒品はすごいいい。島京子と
ともに女性のホープですね。

G 島さんはどこで飲んでます？

F 大阪が多いですけど、『ヴァ
イキング』の例会を大阪と神戸の
両方でやりますから、その時グル
ープで飲んでます。それと北川荘

平、あの人はビール党ですけど、
いいお酒ですよ。

D 赤根和生、赤尾兜子もいける。

F 意外なのが丸本耕。飲まない
とか飲めないとか公言するけど、
ところがつきあうと、ものすごく
飲む(笑)

D この頃、メンバーズ・クラブ
というのができたでしょ、あんな
ところで、みんなごっついこと飲
んでる。

G 11PMで活躍してるミー坊、
小曾根実もいれるべきだ。飲み場
所は神戸ですね。末広さんは？

F あまり飲まないでしょう。他
に音楽関係で指揮者の外山雄三が
西宮に住んでるけど、ほとんどの
まない。

D 辻久子も相当飲むらしいけど
神戸ではあまり飲まない。

G 声楽家の笹田和子も大阪だし
市来崎のリ子は神戸ですが、取り
組場所がわからない。

D 書家で望月美佐がいる。あの
人も、酔うとちょっとうるさくな
る(笑)

F 出口章露は全然のまないし、
書家の人は、案外おとなしい。

G 深山竜洞もこの頃はあまりの
まない。

D 吉沢独陽もこの頃はのまない
し、思いきって新人はいませんか。
G ラジオ関西の青木啓、この人
はごっついですよ。流しのおっさ

んを全部知ってる(笑)

F えらいのを忘れていた。将棋
の内藤国雄八段。これはものすご
いですよ。三役以上だ。

D あれは強い、とにかく強い。

F 弁田さんと飲み明かして、弁
田さんの方がまいるんやから、大
したもんや(笑)

G 新劇関係で、森秀人もにぎや
かでいいんだがね。

D あまりのまないいで、量の点
では阿木五郎。どちらも人にのま
せる雰囲気をつくるところがいい

★東西三賞のゆくえは？

E 三賞の方はどうなりますか？

A 今回は外島健吉が、パーッと
昇進したから、殊勲賞ぐらいど
う？

C 敢闘賞の方がいいでしょう。

A 嘉納正治は、技能賞の値うち
がある。

B ほんま、こんな人は他におら
へんわ。まねができない。

A 何しろ、すわって飲んでる格
好のままで、居ねわりして、30分
位すると、また必ずパチッと目を
あけて、またのむ。これは大した
もんだ(笑)

E 嘉納さんは連続技能賞ですね

C 殊勲賞は、若くて、さっそう
としているということで、樽本久
がいい。今年のJICの理事長でも
あるしね。

F 文化人の方の技能賞は内藤国
雄、ぜったいですよ。唄は本職ハ
ダシ、民謡からジャズまで何でも
こなす。レコーディングした経験
もあるといっていました。

G 話も非常に楽しい。

F 彼の唄は素人じゃない、こり
や、もういい声です。ぜったい技
能賞ですよ。

D 敢闘賞は？

F 陳舜臣はどうですか？

D 大作を書き上げたということ
もあるし……。

F 殊勲賞は、大関、横綱以外と
なると、元永定正なんか、外国の
お酒をだいぶ飲んでできてることだ
し。

D ニューヨークで二日酔いをし
たとかいつてましたね。その点で
は殊勲賞だな。

G これ以外で、賞をやるはずれ
ば、サントリーの藤本義一。

D 東京にいるが、神戸にきて
「8の会」をやってる。これは、
表彰もんだ。

F 飲む飲まないは別として、例
えば感謝賞とか。

G 一年に一回だけやってくると
いうので、「七夕賞」はどう？

D それはいい。

(文中敬称略)

〈於とんかつ武蔵〉



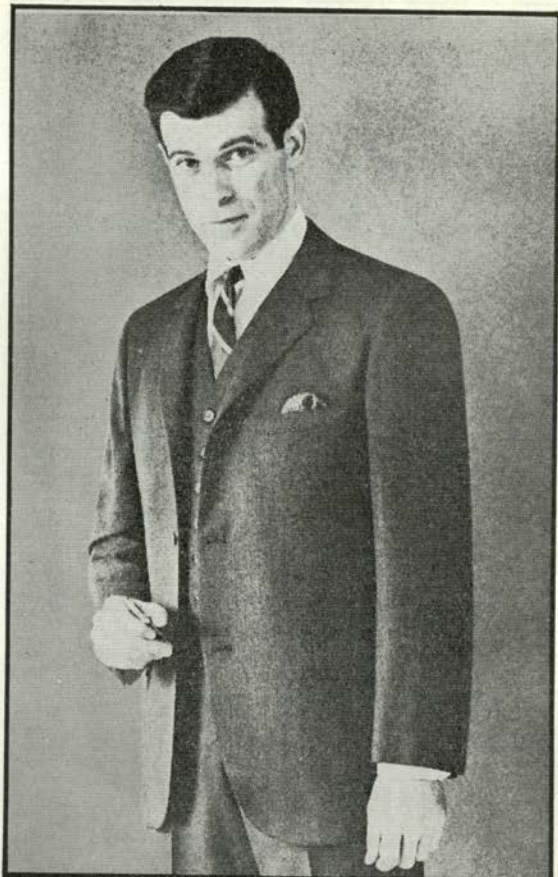
1838 SINCE
HAMBURG
ORIGINAL LACO



日本販売元

元町バザー

神戸・元町1丁目 TEL (33) 1401-7031
東京・東急百貨店 渋谷・日本橋



O-SHIBATA



柴田音吉洋服店

神戸・元町通4丁目 神戸 34-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

★
 本格派の
 人々に愛される
 神戸の靴です

★



★靴のオーダーメイド

ヨシオカ

神戸大丸前・33-5190・9763

東急百貨店

渋谷・日本橋
 (462)3436(直) (211)0511(代)

酒徒なれば
 だれもが選ぶ
 灘の生一本
 大黒正宗



清酒
大黒正宗

安福又四郎商店醸